

4章 魅力ある夜間景観づくりの進め方

福井市のこれからの夜間景観について「福井市景観審議会」（都市や建築等の学識経験者、各種団体、行政、地元事業者やあかりの専門家等で協議）を開催し、「福井市夜間景観ガイドライン」を策定しました。「ガイドライン」を策定するだけでなく、市民一人ひとりが福井市の夜間景観を創っていくという意識を持ち、あかりの整備を計画する際に本ガイドラインをご活用いただき、夜間景観を少しずつ整えていくことが大切です。ここでは、発案から実際の整備までの流れと仕組みを紹介します。

① はじめる

住宅・店舗・商店街などのあかりを整備したい！



事業者
建築主
地域団体等

相談



アドバイザー

専門家（設計士、デザイナーなど）への相談

発注



工事施工業者

ガイドラインを参考に、よりよい照明整備を目指しましょう！

ガイドライン参照

② 計画する

現状を把握する

まずは、その空間の「特徴」を確認しましょう。周囲の建物の様子や、どんな人が集まり、昼と夜でどう雰囲気が変わるのか、現状をよく観察します。

アドバイザー



イメージする

その空間にふさわしい、理想の夜を想像します。「どんなあかりがあれば心地よいか」「どうすれば魅力が伝わるか」などを考え、計画を立てます。

アドバイザー 工事施工業者



試す

イメージを実現するための照明器具を選びます。実際に光を当ててみる実験（点灯実験）を行い、実際の状況を確認して詳細を決めます。

アドバイザー 工事施工業者



一定規模以上の工事については景観届が必要です

③ 整備する

取り付ける

計画に基づき、適切な位置に照明器具を設置します。建物や周囲の景観を考慮し施工します。

工事施工業者



整える

光の向きや角度を微調整します。グレアを防ぎ、安全・安心で「心地よい」空間に仕上げます。

アドバイザー 工事施工業者



夜間景観ガイドライン

夜も楽しさあふれる 福井のまちなか

～誰もが主役に！夜景リノベーションへの挑戦～

概要版

福井市では、令和8年3月に夜間景観ガイドラインを改定しました。本ガイドラインは、行政、住民（建築主、地主なども含む）、民間事業者など、その地域に関係する全ての方が参考とできるよう、福井市が目指す夜の景観のあり方や、その方向性を共有するための指針として位置づけられるものです。福井市ホームページに本編を掲載していますので、是非ご覧ください。

詳細・DLはこちら



1章 魅力ある夜間景観をつくるために

冊子版目次

- 1-1. 福井市のまちづくりの方向性 5P
- 1-2. 夜間景観の資源 7P
- 1-3. エリア別夜間景観形成の考え方と照明の演出手法の例 9P

- ①城址・中央公園エリア / ②養浩館・城址東側エリア
- ③大手エリア / ④駅周辺エリア / ⑤東公園エリア
- ⑥北の庄・中央1丁目エリア / ⑦浜町エリア
- ⑧足羽川エリア / ⑨足羽山・愛宕坂エリア



掲載例 ④ 駅周辺エリア

交通結節機能・公共施設・宿泊機能等の都市機能が集積しており、来街者に福井を最初に印象付けるエリア

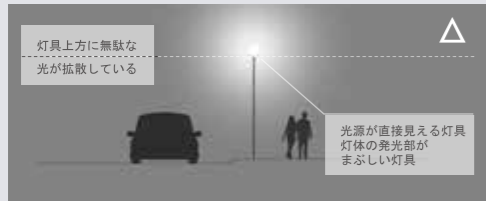


コンセプト ・機能性とにぎわいを両立させ、福井らしさが感じられる空間を演出し、回遊の起点を目指します

あかりの方向性 ・道路照明のグレア改善と色温度の統一
・東公園から足羽川へと誘うプロムナード照明の整備
・恐竜モニュメントのライトアップ等、福井ならではの演出の強化

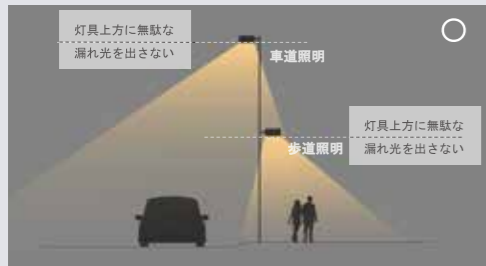
演出手法

道路照明の考え方



全方向に光が拡散する灯具は、光源が直接見えるものが多く、グレア（不快なまぶしさ）を感じやすくなります。

この手法では無駄な光が上方に拡散し、効率よく路面を照らさず。伝統的なまちなみや温泉地などの観光地では、周辺の落ち着きのあるあかりに対し白色の光は調和しにくいものです。



上方に無駄な光を拡散させないようグレア（不快なまぶしさ）を感じさせない灯具（下方配光型・スポットライト型等）を選ぶようにします。

伝統的なまちなみや温泉地などの観光地では、色温度の低いもの（電球色）が落ち着きのある景観を創出します。

モニュメントなどをライトアップする際の注意事項



照明器具には、同じ機種の中に【広角（およそ40°以上）】、【狭角（およそ15°以下）】と配光に幅がある製品があります。埋設照明は近づく光源のグレアが目に入るため、なるべく光が広がらないものを選びます。

2章 ケーススタディ

冊子版目次

- 2-1. 店舗のあるプロムナード 21P
- 2-2. 緑陰のある街路・ポケットパーク 23P
- 2-3. 商店街のあかり 25P
- 2-4. 風情のある料亭街のあかり 27P
- 2-5. 市民に愛される川沿いのあかり 29P

掲載例 2-1. 店舗のあるプロムナード

福井駅から城址へみちびくプロムナード

福井駅から城址に向かうプロムナードは、福井まちなかの回遊性において重要なプロムナードの一例です。奥に見えるランドマークが視点の中心となり、暖かなあかりの連続性によって歩きたくなる街路の表情を創り出していくことと、周辺店舗の漏れ光や建物のあかりの連なりがポイントです。



昼の様子 夜の様子

スポットライトポールによるプロムナード照明。路面の明るさはしっかり確保できながら周辺の店舗のあかりも視認しやすくなります。

店舗外観のあかりは重要なまちのあかりです。提灯や置き照明が使われます。内照式サインもできるだけ電球色の光源を使用しましょう。

ストロートの先が明るく演出されていると、誘導する効果があります。ライトアップされた城跡は視点の集まる場所となり良好な夜間景観をつくります。

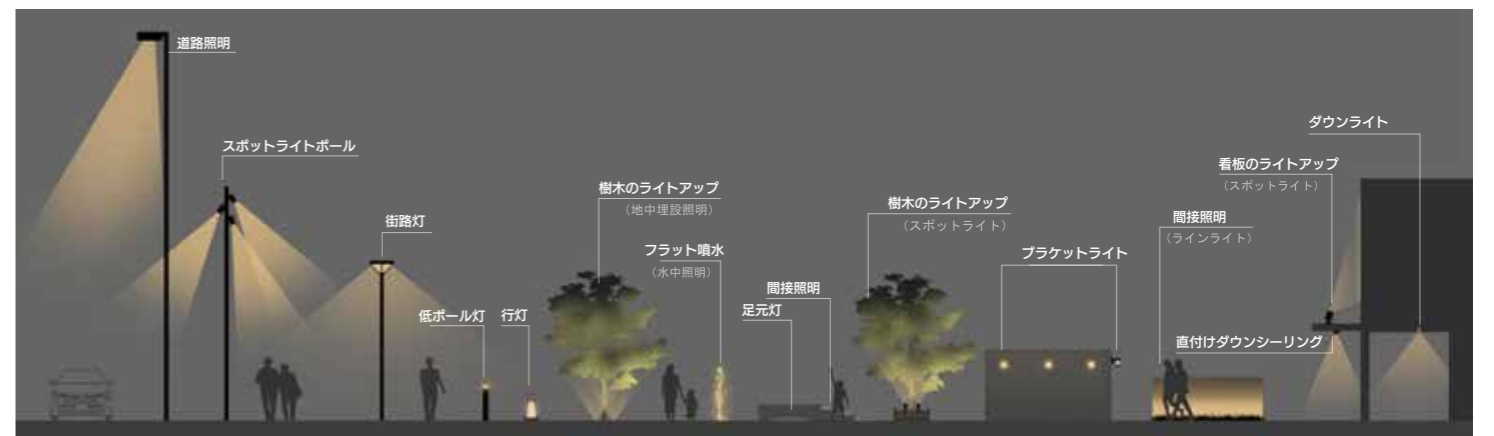
3章 あかりの基礎知識

冊子版目次

- 3-1. 照明器具の種類 31P
- 3-2. 色温度 33P
- 3-3. 鉛直面の明るさ感とは 33P
- 3-4. 照明制御と省エネルギー 34P
- 3-5. 照明設置の豆知識 34P
- 3-6. 用語解説 34P

掲載例 3-1. 照明器具の種類

国内には、街路灯や防犯灯、公園灯、建物を照らす景観照明など、さまざまな照明器具があります。まちづくりでは、夜道を安全にする、安心感を高める、街を美しく見せるなど目的が異なるため、場所や用途に合った照明を選び、上手に使い分けることが大切です。



道路照明	スポットライトポール	街路灯	低ボール灯 (ボール)	地中埋設照明	足元灯	スポットライト	ブラケット	間接照明 (ライブライト)	ダウンライト
1m以下のポール照明で、街路に点在し足元を照らします。	高いポールの上部にスポットライトが配置されているポール照明。一か所から複数の場所を照らすことができ、また上空に不要な光を発生しないので世界的に採用が増えていきます。	歩道や広場に使用される基本的な公共照明。近年の公共空間整備では、グレアの無い下方配光のものが増えています。	和の情緒のある置き型の照明で、和風のまちなみや庭園では重要な景観構成要素となります。	地面に埋設して使用する投光器。樹木や彫刻などのライトアップに使用します。	壁面に埋め込んで使用する照明。足元の路面の明るさを確保します。	屋外の演出で最も使用する照明器具。スパイク式で地面に差すものもありません。光源の強さの違いだけではなく、配光も狭角から広角まで様々な種類があり、演出する対象によって使い分けます。	壁面に取り付けて使用する照明器具。拡散型や遮光型などテクニカルなものだけでなく、デザイン性の高いものもあり、店舗や空間のイメージ作りにおいて効果を発揮します。	高さのある壁面や土木構造物などに間接照明を実施したい時に使います。光源が見えないように遮光することが重要です。	軒下や店舗前などに使用する基本的な照明。埋め込み型のダウンライトの他に直付けのダウンシーリングもあります。屋外用・軒下用などの性能を確認して使用します。